

第21回きぼう利用推進有識者委員会 議事要旨

1. 日時: 2025年 3月19日(水) 13:00~15:00

2. 場所: Microsoft Teams会議/TKPガーデンシティ御茶ノ水 カンファレンスルーム2D

3. 出席者

(1) 委員: 永井委員長、山本副委員長、浅島委員、岡町委員、佐宗委員、津田委員、西島委員、丹羽委員、浜崎委員、御手洗委員

(2) JAXA/事務局: 松浦真弓、川崎一義、小川志保、白川正輝、芝大、遠藤祐希子、小林裕希、中西雄太 他

4. 議事要旨

本委員会で、前回に引続き、きぼう利用プラットフォーム(以下”PF”という)中間評価計画案等について、各委員の専門性の観点から議論を深めて頂いた。本結果を踏まえJAXAは各作業を進めることとした。主な議論、ご意見は以下のとおり。

(1)ISS・地球低軌道利用に関する周辺状況について(報告)

国内外の地球低軌道活動の動向について報告した。低軌道利用での研究力・イノベーション創出力の強化としての、JAXAラボ機能/オープンリノベーションハブ機能に関し質問があり、JAXA自身の科学研究の推進力、能力向上が大きな特徴であり、文部科学省の委員会で議論されている状況の説明があった。ラボ機能は莫大な予算/人的資源を要するため、実施すべき項目について、バランスを取りながら優先順位を設定して進める必要がある旨のご意見があった。

有償利用/無償利用の整理において、JAXA/民間がある比率で出資しあうような仕組み作りも必要とのご意見があり、4つの定型利用の指定の経緯、非定型の民間利用提案による民間企業自身による営業活動等に関する質問があった。JAXAより「きぼう利用戦略」できぼう利用プラットフォーム(PF)が定義された経緯、非定型利用推進のため、一定のリソースが予め配分され、企業側が主体的にテーマを選定できる新たな仕組みである旨の説明があった。

複数委員より、米国における民間宇宙ビジネスの盛り上がりや、スピード感を持った新領域開発の動向について共有頂き、「きぼう」利用事業におけるベンチャー企業参入や海外企業へのアプローチの可能性の質問があった。また、今できることの延長ではなく日本が将来宇宙でどのような事をするのかのイメージを提示し、広がりを持った議論を行うことが重要とのご意見があった。

(2)きぼう利用プラットフォームの中間評価実施計画案について(討議)

①評価対象PFの再整理、②評価項目および評価プロセスを確認頂き、中間評価実施計画の策定に向け議論頂いた。a.PF運営・推進等のかかる評価、b.研究開発評価、c.全体評価のうち、本委員会ではc項を実施頂く旨の説明をした。評価結果の重み付けの配慮(推進委員会が評価する点)として、例えば必要に応じて客観的専門家による追加評価をb項の時点で実施し、その結果を本委員会で全体評価(c項)すべき等のご意見があった。次に繋げ領域を伸ばすインセンティブになる様な文章での総合的評価の方が、解像度良く、課題が良く分かる旨のご意見があった。事業者移管済みの超小型衛星放出PF、船外ポート利用PFは、JEMユニークで意義が極めて大きく、ベンチャー企業からのJAXAへの期待が非常に高い点を考慮すべき等のコメントがあった。また、中間評価を実施するにあたっては、評価軸に加える必要はないが、宇宙利用の在り方や「きぼう」のこれまでの貢献状況を明確化したうえで、今後低軌道をどう利用していくかという視点での整理を行い、評価を行うことが重要、その上で「きぼう利用戦略」第5版につなげていく必要があるとの意見があった。

(3)「きぼう」利用のプロモーション活動について(報告)

ISS「きぼう」利用シンポジウム2025、事前配信イベント等の報告があり、子供/一般人向けプロモーション活動の重要性、併せて、学会への積極的アプローチにより、専門分野でのJAXAの活動推進も重要であるとのご意見を頂いた。

以上